

河川環境データベース標準仕様（案）

平成 12 年 1 月

建設省河川局河川環境課

目 次

1. 目 的	1
2. 河川環境情報に関する基本方針	2
2.1 河川環境データの定義	3
3. 河川環境情報ネットワーク構成案	4
3.1 河川環境情報ネットワーク全体構成	4
3.2 河川環境データベース群管理データベース	7
4. 河川環境データベースの標準構成	10
4.1 河川環境データベース項目	10
4.2 河川環境データベース管理システム構成	10
5. 河川環境データベースの拡張	13
6. ハードウェア・ソフトウェア	15
(1) ハードウェア	15
(2) ソフトウェア	17
【参考】	18
添付資料 河川環境データベース項目（案）	25

1. 目的

河川工事等の河川管理を行う際には河川環境に関する情報を適切に把握することが重要である。そのためには、河川に生息・生育する生物や、その生息・生育環境等に関する河川環境情報を体系化するとともに、河川環境情報の提供を支援する主題地図及びデータベース群や、これらを利用するためのアプリケーション等を含めた情報基盤の整備を進めていくことが必要である。

本河川環境データベース標準仕様（案）は、河川環境に関する情報の蓄積及び利活用等において支援すべきデータベース群や各種アプリケーションを有効かつ効率的に開発及び運用する際の標準仕様を示したものである。

2. 河川環境情報に関する基本方針

現在、紙の形で管理されている各種河川環境調査結果等の情報をデータベース化する場合には以下の方針で行うものとする。

なお、以下の方針は「基幹データ整備標準仕様（案）平成11年8月」に準拠するものである。

管理面の方針

河川環境データの統一性の確保

河川環境データとして、複数のデータベースに登録され、同じ位置づけにある河川環境データについては、統一した対応関係が整理され不整合のない構造とする。また、河川環境データ管理に一貫性をもたせ、使用されるデータベースによって河川環境データ内容の食い違いが起こらないこととする。

河川環境データのメンテナンス性の確保

河川環境データの修正維持が容易なように、データベースの構造、管理体制を検討し、保守対象となる情報量を減らし、保守負担を極力減らせるように、必要な情報のみを更新すれば良い仕組みを考える。

利用面の方針

河川環境データの利便性の向上

河川環境データを他部署において統一的に参照できるようにするためにメタ情報を活用することとする。これは、データそのものを表わしたのではなく、データの所在及びデータの更新状況などの情報である。ネットワークが普及した現在においては、データそのものを手元に置かなくても、その所在さえ判れば、必要に応じてアクセスする仕組みが効率的である。

[解説]

事務所等における各種河川環境調査結果の情報化は、ややもすると河川環境データの複製が容易となり、同様な河川環境データが存在することになる。

このような情報管理では、主たる情報と参照している情報との食い違いが発生し、メンテナンスが困難となる場合があるため、河川環境データの統一性を行うことが必要である。

2.1 河川環境データの定義

河川環境データは、河川基幹データのの一つと位置づけられるものとし、以下の条件に該当するものとする。

- ・ 河川水辺の国勢調査データ
- ・ 事務所における河川環境調査等において整備された情報に含まれるデータ
- ・ その他機関（環境庁、自治体等）が所有している情報に含まれるデータ

[解説]

河川環境データベースは、定義された3種の条件を満たしたデータから構成される。なお、当面の河川環境データベースとしては以下の河川水辺の国勢調査のデータを対象にデータベース化を行う。

- 1) 魚介類調査データ
- 2) 底生動物調査データ
- 3) 植物調査データ
- 4) 鳥類調査データ
- 5) 両生類・爬虫類・哺乳類調査データ
- 6) 陸上昆虫類等調査データ
- 7) 生物種目録データ
- 8) 河川調査データ
- 9) 河川空間利用実態調査データ

3. 河川環境情報ネットワーク構成案

3.1 河川環境情報ネットワーク全体構成

河川環境情報ネットワーク全体構成については「基幹データ整備標準仕様(案)平成11年8月」に準拠する。

[解説]

(1) 河川環境情報ネットワーク構築の方針

サーバは河川基幹データ用サーバ群と同一ネットワーク上で接続可能とする。
事務所における河川環境情報用サーバーは、原則独立したサーバーを導入することが望ましいが、事務所の判断で他基幹データ用サーバーと併用することができる。

河川環境データの修正・更新については担当課が責任を持つこととする。

河川環境データの書き込みは担当課のみ可能にし、読み込みは担当課以外でも可能とする。

(2) 河川環境情報ネットワーク構成

事務所内の同一のネットワーク上に共有の河川環境データベースを設置する。
利用者は、自分のパソコンから個々のアプリケーションを利用し、必要な河川環境データ項目の所在を得て、河川環境データベース群にアクセスする。

以上を表現した標準的な河川環境情報ネットワーク構成イメージを図 - 1 に示す。

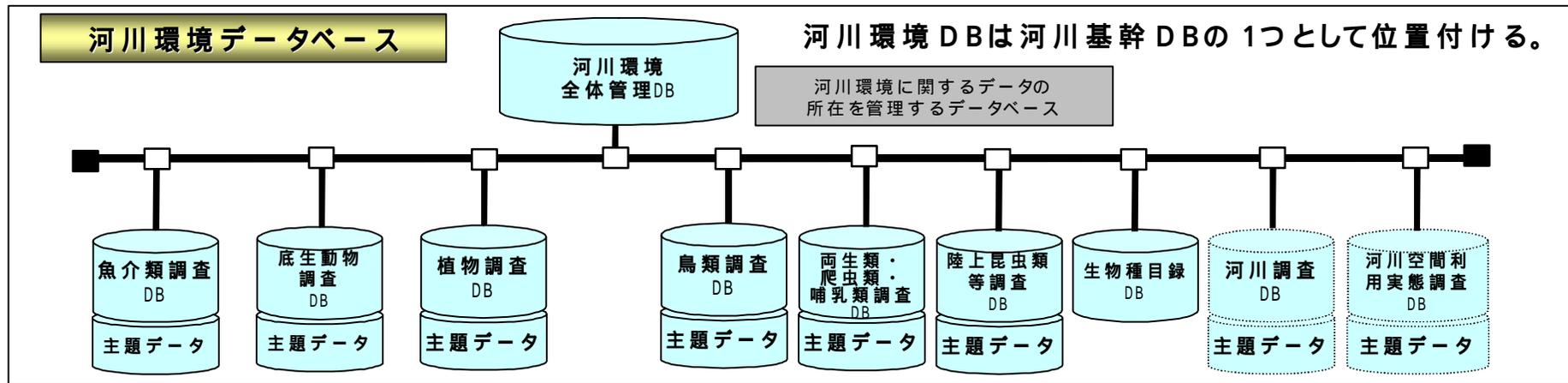
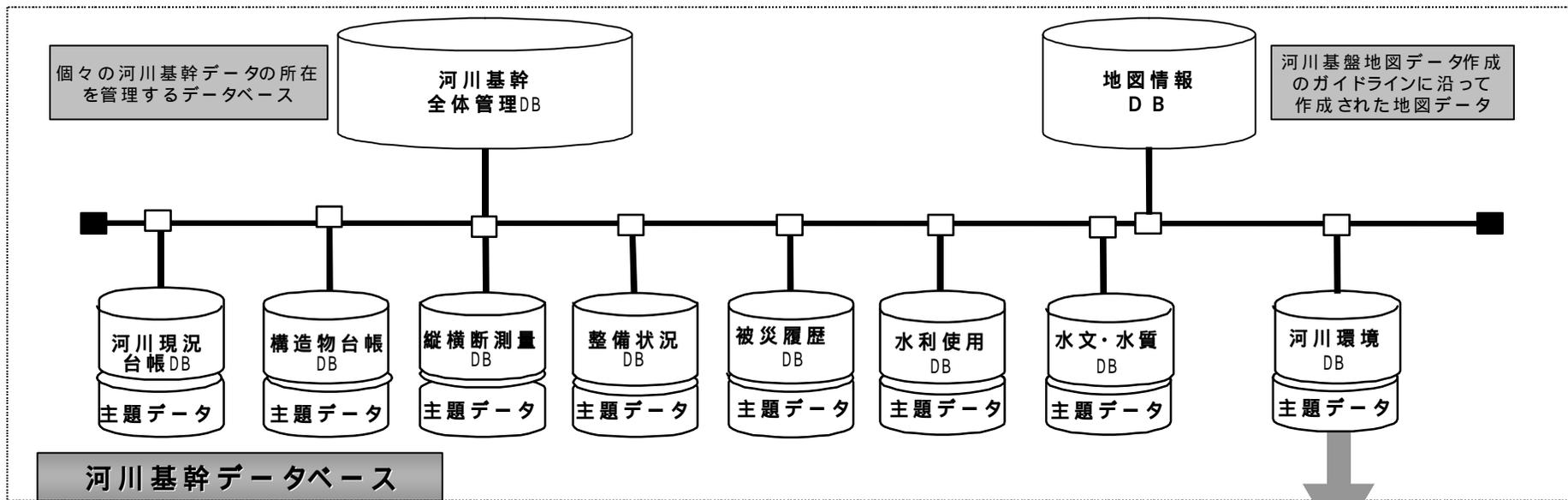


図 - 1 標準的ネットワーク構成イメージ図

(3) 河川環境情報ネットワーク整備

河川環境データベースをネットワーク上に整備する場合、基本的には河川基幹データベースが導入・整備されているLANを使用するものとする。

なお、事務所によっては河川基幹データベース導入・整備より先に河川環境データベースが導入・整備されることが考えられる。このような場合においては、以下の方針とする。

事務所内LANの使用にあたっては、事務所内LAN担当課又は管理者の承認を得るものとする。

サーバ設置場所は、事務所内担当課又は管理者と協議の上、決定するものとする。

3.2 河川環境データベース群管理データベース

河川環境データベース群管理データベース（以下、河川環境全体管理DBという）は、河川環境データベースの物理配置、項目名、アクセス権等の管理方法を標準化し、これらの項目の管理を業務アプリケーションから独立させて管理する河川環境データベースである。

なお、河川基幹全体管理DBとの接続は、この河川環境全体管理DBと行うものとする。

[解説]

河川環境全体管理DBは、河川環境データベース群全体の管理を容易にし、今後整備される業務アプリケーションの作成及び修正等の整備コストを低減することを目的として設置する。

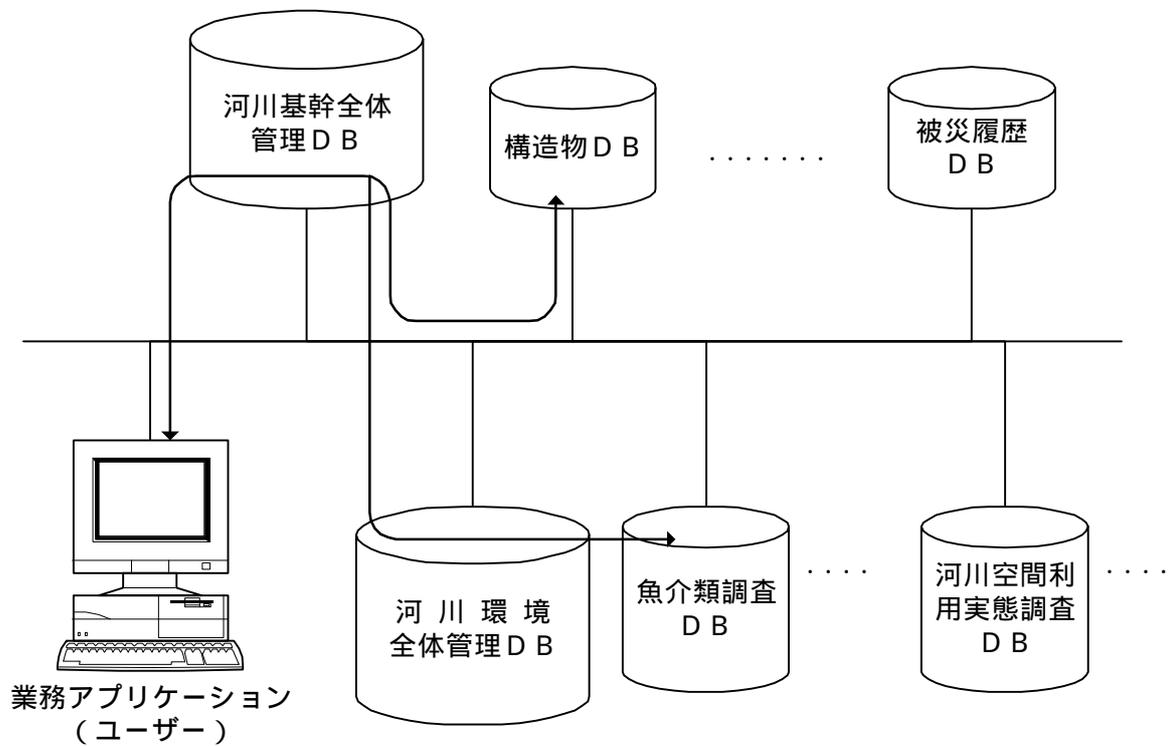
河川環境全体管理DBを導入することにより、以下の利点がある。

- ・ 地建、事務所担当者が異動した場合でも、後任のシステム担当者は、河川環境全体管理DBにより状況を容易に把握できる。
- ・ 河川基幹データベース群のリンクは、この河川環境全体管理DBと河川基幹全体管理DBで行われるため、支援システム開発時に全てのデータベース群の調査を行う必要がない。
- ・ 河川環境データベースの構造に習熟するまでの時間とコストが少ない。

次ページに河川基幹全体管理DBとの係わりを示す。

【河川基幹全体管理DBとの係わり】

【ケース1：河川基幹データベースと同一に整備を行った場合】

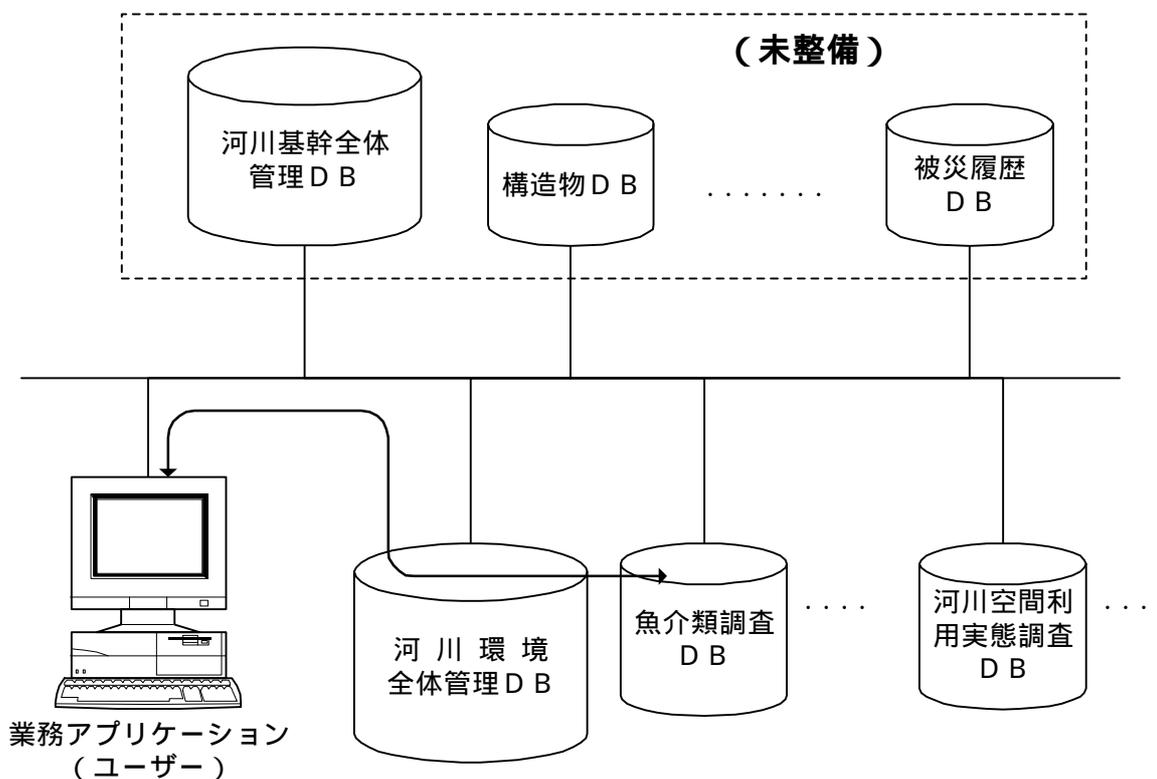


河川基幹データベースが導入されている場合は、業務アプリケーションからの問い合わせは必ず河川基幹全体管理DBを経由する。

河川環境情報に関する問い合わせは、河川基幹全体管理DBから河川環境全体管理DBを経由し、河川環境データベース群にアクセスする。

【河川基幹全体管理DBとの係わり】

【ケース2：河川基幹データベースが未整備の場合】



河川基幹データベースは未整備であり、河川環境データベースが先行して整備される場合、業務アプリケーションは河川環境全体管理DBを経由し、河川環境データベース群へアクセスする。

なお、河川基幹データベースが整備された場合、河川基幹全体管理DBへ、河川環境全体管理DBの所在を登録する。

4. 河川環境データベースの標準構成

4.1 河川環境データベース項目

河川環境データベースの標準データ項目については、全国統一とする。

[解説]

河川環境データベース項目案を「添付資料：河川環境データベース項目（案）」に示す。この河川環境データベース項目案は「平成9年度版河川水辺の国勢調査マニュアル 河川版（生物調査編）」に基づき設定したものである。

河川環境データベース項目の追加を行う場合には、「河川環境データベース標準仕様（案）」の改訂を行うものとする。

河川環境データベース項目案以外の事務所独自に設定するようなデータベース項目については、別途アプリケーションによる利用を妨げるものではない。

4.2 河川環境データベース管理システム構成

河川環境データベース管理システムは、大きく分けて項目データ処理機能と地図処理機能のアプリケーションから構成することを基本とする。

なお、これらのアプリケーションは構築するシステム環境に応じ、統合・分割しても良いものとする。

[解説]

以下の機能（処理部分）についての基本機能案として標準を定める。

ここでの標準は必ずしも完全に従うべきものではないが、概ねこれに準じて機能を設計するのが望ましい。（図-2 にシステム構成概念図、図-3 にシステム機能構成図を示す）

項目データ処理機能

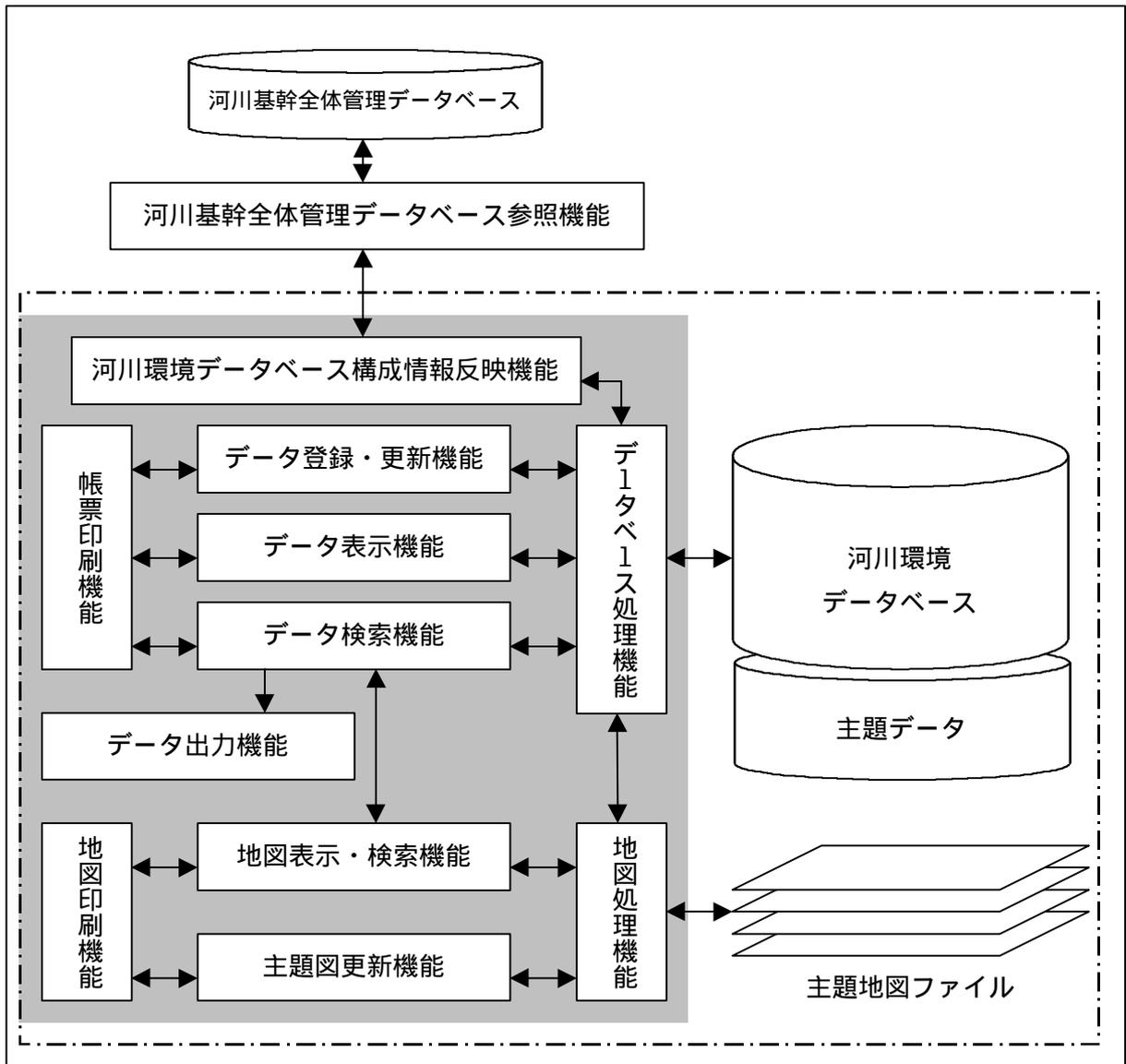
項目データ（文字・数値）を処理する部分であり、データ更新、表示、検索、帳票印刷、データ出力部分より構成される。

なお項目データ処理機能は河川環境データベース群への参照を処理する機能も含む。

地図処理機能

項目データ等による位置検索及び地図表示機能、主題図更新機能、地図印刷機能より構成される。

なお、各機能詳細については【参考】に示す。



- ⋯ : 河川環境データベースシステム
- : データベース管理システム構成

図 - 2 システム構成概念図

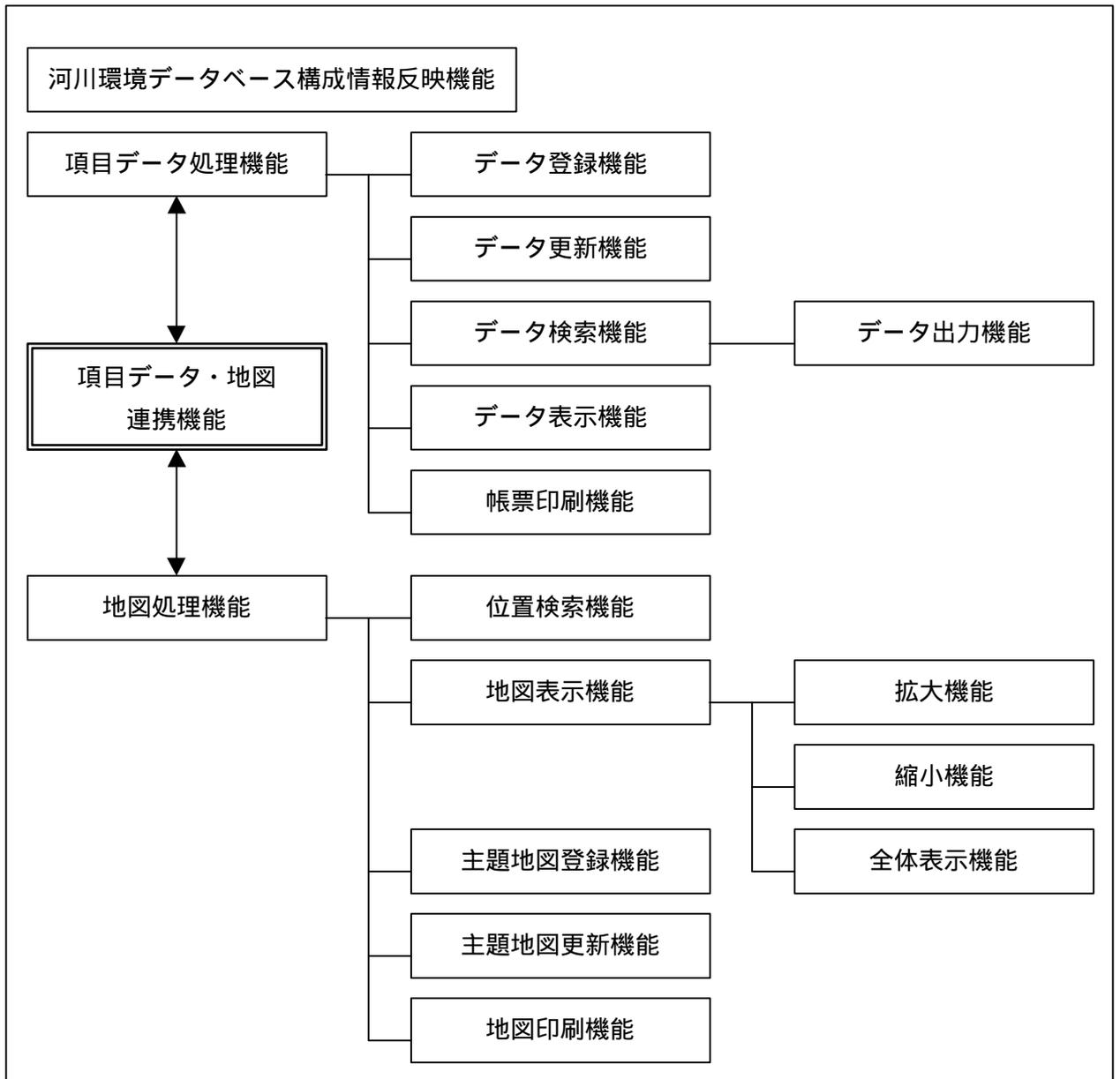


図 - 3 システム機能構成図

5. 河川環境データベースの拡張

今後、ネットワークに他の河川環境情報としてデータベースを追加・拡張する場合には 2～4 章に示した方法により、データベースの追加・拡張を行うことが可能である。その場合、河川環境情報全体管理データベースに対してデータ所在の登録を行ない、河川環境データベースと同様の利用を行なう。

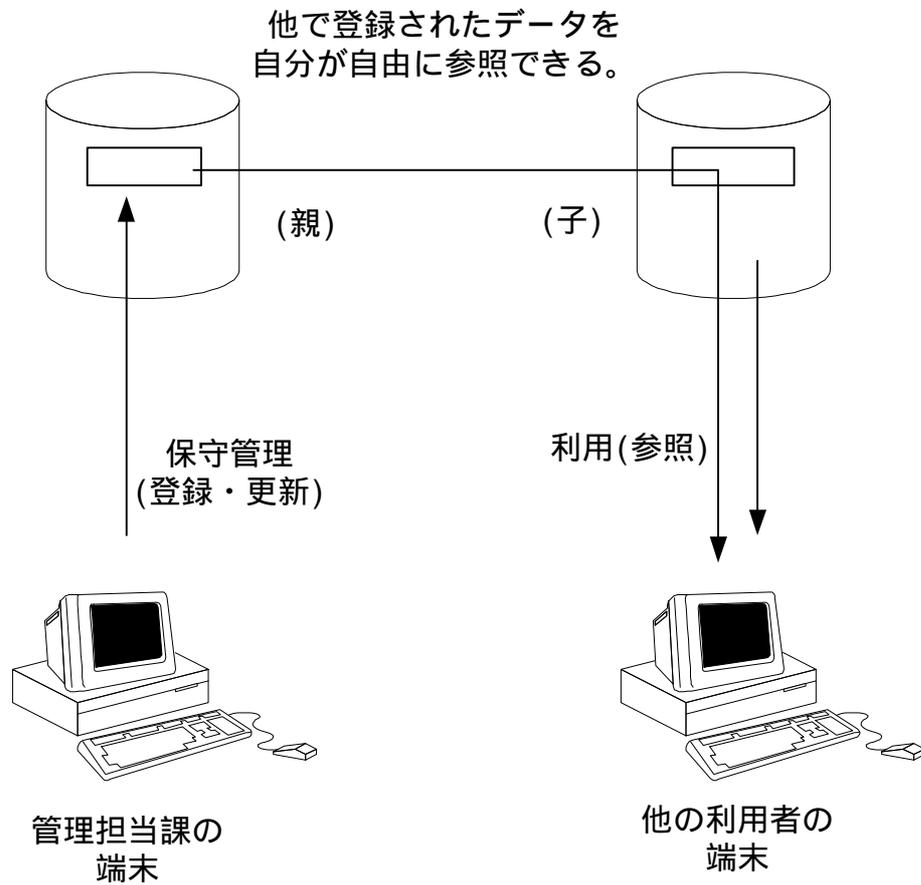
[解説]

基本的には、事務所で LAN 上に他の河川環境データベースを開発し、配置する場合には、以下の方針に従うことが望ましい。

- ・ 管理面において、異なるデータベースに登録される同じ位置づけのデータは統一性を確保する。
- ・ 保守負担を極力減らせるように、メンテナンス性を確保する。
- ・ データベース間で重複するデータを共有化する。
- ・ 河川環境全体管理データベースで各データベースのデータ所在情報を管理する。
- ・ 同一ネットワーク上で接続可能とする。
- ・ 追加・拡張の際には、地建間、事務所間でデータの整合を取る。

新規に河川環境データベースを開発する場合については、本標準仕様及び「基幹データ整備標準仕様（案）平成 11 年 8 月」に準じた開発を行い、事務所内でのデータ共有化を図る。

既存の河川環境データベースを同一 LAN 上に配置する場合は、保有している河川環境データベース及びデータベース内項目の親子関係を見直し、河川環境全体管理データベースへの登録を行うとともに、必要なシステム改良をすることが望ましい（図 - 4 にデータ共有イメージを示す）。



一度入力したデータは、それが他の所有のものであっても再入力しなくてよいように参照可能とする(データの共有)。つまり、データ内容および、データ構造に関する情報が一元化され共有することができるものとする。

図 - 4 データ共有イメージ

6. ハードウェア・ソフトウェア

本標準仕様のデータベースを扱うためのハードウェア及びソフトウェアについては、他の河川基幹データベースとの整合を図り、整備することとする。

(1) ハードウェア

今回提示するハードウェア仕様は、「基幹データ整備標準仕様(案) 平成11年8月」に準拠される。

なお、河川環境情報においては、他の河川基幹データベースとの整合を図り整備することから、1) 新規に整備する場合 2) 現状整備されているものに追加する場合が考えられる。

以下に2ケースにおける考え方を示す。

1) 新規に整備する場合 (サーバ推奨仕様)

処理能力

CPU : Pentium 266MHz 以上
ハードディスク容量 : 5GB (*)
(2.5GBのraid仕様(ミラーリング)を想定)
メモリ容量 : 128MB 以上

付属機器等

無停電電源装置 : 装備していること
バックアップ装置 : 非圧縮時の容量が2GB以上のDAT等のバックアップ装置を装備していること
ディスプレイ装置 : 機器の状態監視および操作が可能な17インチ以上のディスプレイを装備していること
解像度 : 1,280×1,024 ドット以上
表示色数 : 256色 以上

形状

タワーもしくはミニタワー型であること(ボード等の拡張が可能なこと)

ハードディスク容量の詳細は整理データ 1GB 及びシステム関連 1.5GB である。推計の際には、6調査2回分とした。推計結果はミラーリングを含め、表中のとおり 2.5GB × 2 = 5GB とする。(河川GIS分は含まない)

表 - 1 1事務所1河川あたりハードディスク容量（ミラーリング含まず）

	データ名称	データ概算容量 (MB)
整備データ	文字数値データ	1
	イメージデータ	800
	地図データ	150
	計	951
システム関連	OS	250
	Oracle、アプリケーション	350
	その他予備	900
	計	1500
合計		2451

2) 追加整備する場合

既に整備されている河川基幹データベースサーバに追加する場合には、ディスクの増設を行う。

表 - 1 に示した容量は、OS、RDBMS等を含んだ容量であり、既存のサーバでは既に導入されているため不要である。

参考に1事務所1河川での整備データは951MB（1GB）で、ミラーリングを含め $1\text{GB} \times 2 = 2\text{GB}$ 以上の増設が望ましい。

また、複数水系の場合、上記容量（2GB）を河川分加算するものとする。

（例）1事務所3河川対象の場合

$$2\text{GB} \times 3 (\text{河川}) = 6\text{GB} \quad (\text{以上})$$

クライアント推奨仕様

処理能力	
CPU	: Pentium 200MHz 以上
ハードディスク容量	: 1GB 以上
メモリ容量	: 64MB 以上

(2) ソフトウェア

推奨仕様

新規に整備する場合に推奨する仕様を示す。

ソフトウェア推奨仕様

【サーバ】	
ソフトウェア要件	
OS	: Windows NT Server 4.0 以上 (*)
DBMS	: Oracle 8 (*)
【クライアント】	
ソフトウェア要件	
OS	: Windows 95,98 又は NT Workstation 4.0 以上

河川環境データベースで新たに設定するライセンス数（最大同時アクセス数）は5ライセンスとする。したがって、河川基幹データベースと合わせた総ライセンス数は、25ライセンス（河川基幹データベース分20ライセンス+河川環境データベース分5ライセンス）を基本とし、適宜、事務所の状況に応じて設定するものとする。

【参考】

1 項目データ処理機能

(1) 検索機能と表示機能

検索条件の設定

構築されているデータベース群を選択し、任意項目の選択及び各種条件設定を行い、当該データベースの検索処理を行う。指定した検索条件は適宜表示する。

なお、コード検索を行う場合と文字・数値検索を行う場合、それぞれ以下のような処理を行えるようにするものとする。

1) コード検索

項目一覧リストより選択できる形式とする。なお、必要に応じて複数項目を選択できるように設定する。

2) 文字・数値検索

設定した条件値に対して次ぎの補助条件を指定できるものとする。

【文字列】

- ・完全一致
- ・前方一致
- ・後方一致
- ・部分一致

【数値】

- ・等しい(デフォルト値)
- ・以上
- ・以下
- ・範囲指定

一覧表の表示項目の設定

検索結果一覧を表示する際、表示項目の設定が行える。

検索結果の一覧表示

検索結果を「一覧表の表示項目の設定」にて設定した項目で一覧表示し、検索件数の表示を行う。

レコードの選択はマウスにより行えるものとし、必要に応じて複数レコードの選択が行えることも可能にする。

属性情報の表示

選択されているレコードの情報がより詳細な属性情報を持つ場合、その詳細情報の表示を行う。なお、複数表示されている場合は、左・右矢印ボタン等で、レコードの移動を行う。

写真データの表示

選択されている属性情報に写真データが関連付けられている場合、写真データの表示を行う。

地図検索

選択されている情報とリンクされている図形を表示する。

(2) 更新機能

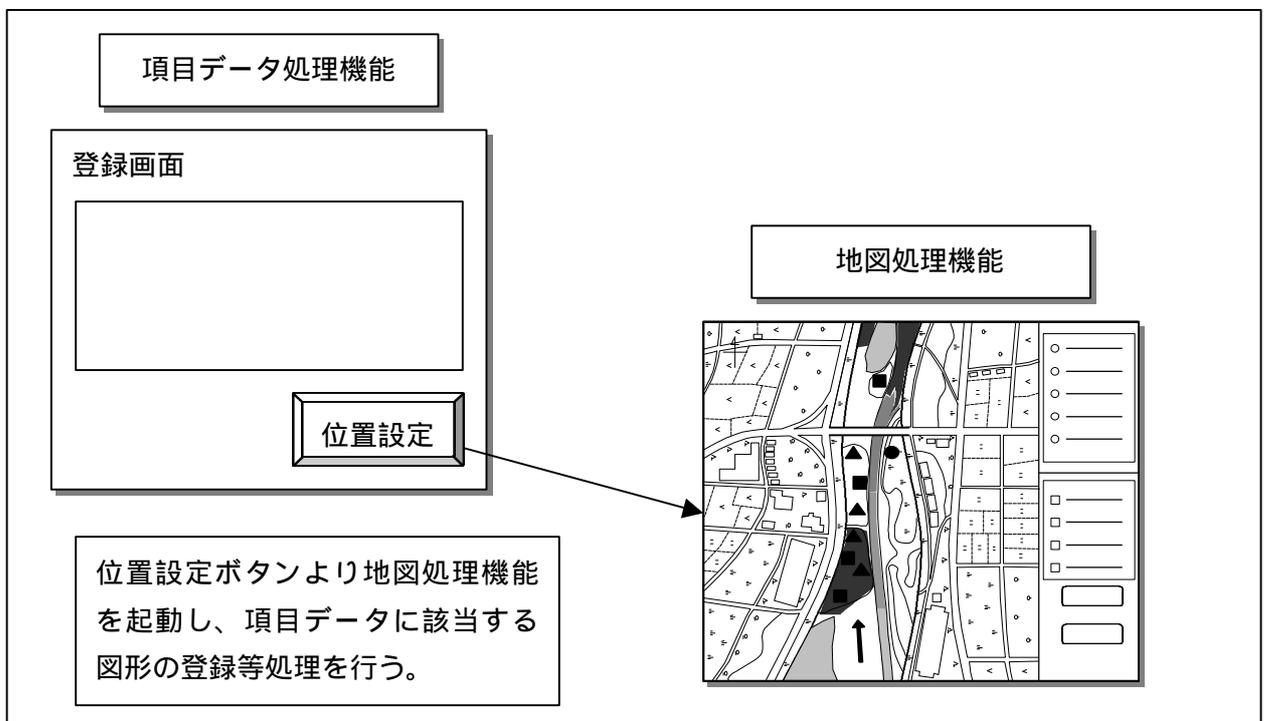
DBへのデータ追加・更新

各テーブル毎にデータベースへの新規レコードの追加を行うことができることとする。また、各情報毎のレコードの選択を行い、更新/削除ができることとする。

なお、各テーブルの操作に関しては、様々な関係付けがなされているため、不整合が発生しないよう注意し操作するものとする。

地図情報とのリンク

必要に応じて、新規登録されたデータと地図処理機能で登録されている図形とのリンク処理を行う。



データ登録時の地図情報とのリンク

(3) 地図処理機能

検索機能と表示機能

地図表示

位置指定により任意の場所を指定して、基図と主題図の表示を行う。
地図の縮小と拡大、任意縮尺の設定、スクロールができることとする。

属性情報検索

主題図形とリンクしているデータを表示する。

(4) 登録機能と編集機能

主題図登録機能

点・線・面の作図機能により主題図の登録が行える。
主題図の登録処理は、作成した図形に識別可能な番号を付与する。

主題図編集機能

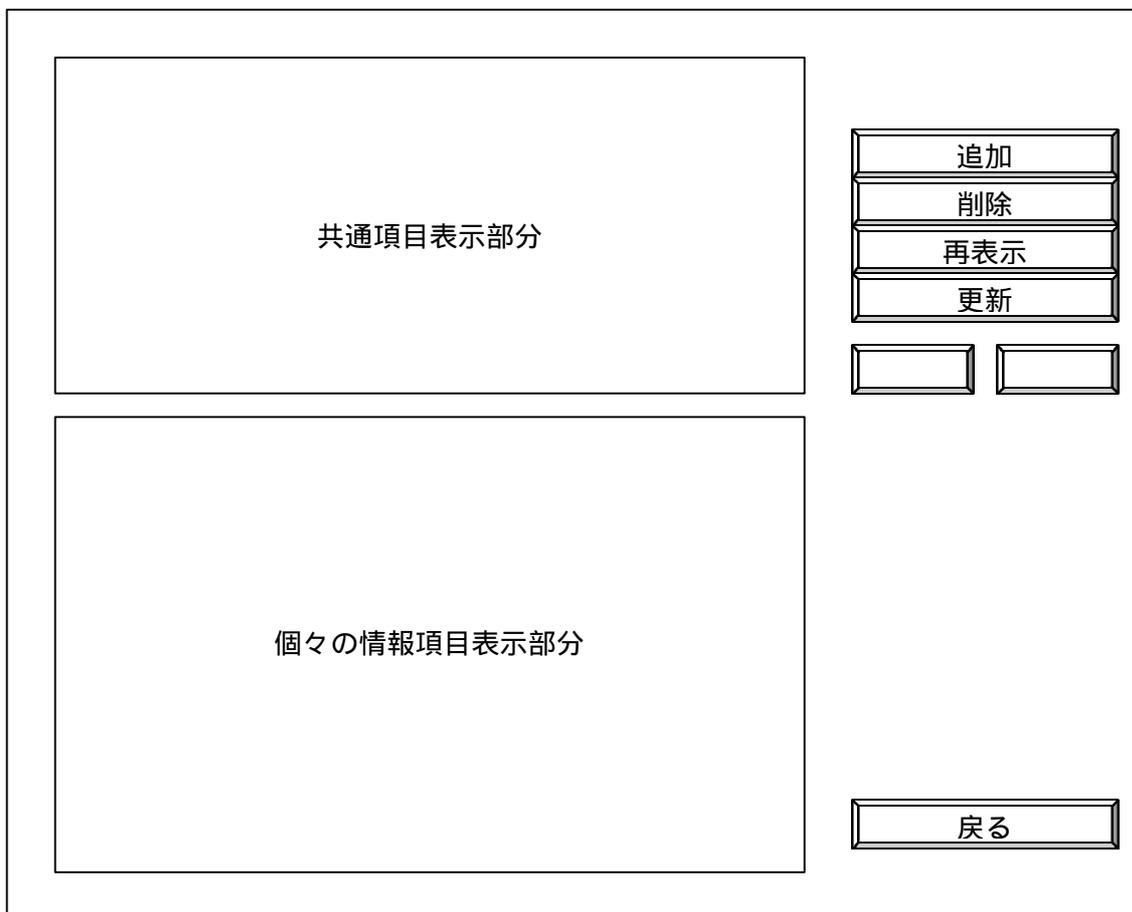
登録されている主題図の形状・位置の修正や削除を行う。

DBとのリンク

新規登録された主題図形と、項目データ処理機能で登録されているデータとのリンク処理を行う。

(2) 登録更新画面

各データ毎に様式や項目が異なるため、情報毎の登録・更新画面が必要となる。なお、帳票間で共通な項目がある場合には同じ画面構成で処理することができる。次に共通項目がある場合の標準画面設計を示す。



- ・ 共通項目表示部分 : 各種情報の共通項目を表示する。
- ・ 個々の情報項目表示部分 : 各種情報の個別項目を表示する。
- ・ 追加 : 選択している情報内容のデータを1件追加する。
- ・ 削除 : 選択している情報内容のデータを1件削除する。
- ・ 再表示 : 現在の表示内容について最新の情報を表示する。
- ・ 更新 : 修正した値でデータベースの更新を行う。
- ・ : 表示中情報の1件前の情報を表示する。
- ・ : 表示中情報の1件後の情報を表示する。
- ・ 戻る : メニュー画面に戻る。

白 紙

河川環境データベース項目（案）

河川環境データベース標準仕様（案） 添付資料

白 紙

目 次

1 . 魚介類調査.....	33
2 . 底生動物調査.....	39
3 . 植物調査.....	43
4 . 鳥類調査.....	49
5 . 両生類・爬虫類・哺乳類調査.....	55
6 . 陸上昆虫類等調査.....	65
7 . 種目録マスタ.....	70
8 . 共通マスタ、コード一覧.....	71

白 紙

<本資料の利用にあたって>

本「河川環境データベース項目（案）」（以下、「本資料」という）に示す河川環境データベース項目案は、「平成9年度版河川水辺の国勢調査マニュアル 河川版（生物調査編）」に基づいて設定したものである。

今後、河川環境データベース項目の追加を行う場合には、「河川環境データベース標準仕様（案）」の改訂を行うものとする。

なお、河川環境データ項目案以外の事務所独自に設定するようなデータベース項目については、別途アプリケーションによる利用を制限するものではない。

白 紙

<本資料の見方について>

本資料は「河川環境データベース標準仕様(案)」の添付資料として、「河川環境データベース項目案」及び「マスターデータ・コード一覧」を示すものです。ここで示す河川環境データベース項目案は、データ項目と属性、データ長、備考に加え、「河川水辺の国勢調査」で作成される各帳票との対応から構成されます。

以下に当該帳票の見方について簡単に説明します。

データ項目についての記述部分

この部分には、データ項目案及び当該データ項目の属性(文字、数値、日付、メモ)や文字列の長さ、備考を記述しています。

「河川水辺の国勢調査」帳票との対応

この部分には、左記データ項目と「河川水辺の国勢調査」帳票との対応を「 」及び「 」で示しています。

「 」: 出力項目
「 」: 集計項目

データ項目	属性	データ長		備考	計画様式						事前調査様式								
		半角	全角		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4					
					調査対象河川	河川の概要	調査地区	調査箇所	鳥類集団分布地調査における調査地区位置図	調査時期の選定根拠	鳥類既往文献調査表	鳥類文献記載変更調査表	鳥類指導 助言 聞き取り等調査	鳥類の狩猟および保護に関する一覧表					
地建名	数値		4	地建マスタ															
事務所名	数値		4	事務所マスタ															
調査年度 1	数値		4	(西暦 YYYY)															
調査年度 2	数値		4	(西暦 YYYY)															
水系名	数値		4	水系マスタ															
河川名	数値		4																
流域面積	数値		6	河川マスタ															
流路延長	数値		4																
調査対象区間(自)	数値		4	(km)															
調査対象区間(至)	数値		4	(km)															
河川の概要	メモ		可変																
調査地区 河川名	数値		4	河川マスタ															
調査地区 調査地区番号	文字		25																
調査地区 全体調査地区	数値		1	有無マスタ															
調査地区 距離(自)	数値		6	(km)															
調査地区 距離(至)	数値		6	(km)															
調査地区 左右岸	数値		1	左右岸マスタ															
調査地区 調査地区名	文字		25																
調査地区 市区町村名	文字		25																
調査地区 観察面積	数値		6	(㎡)															
調査地区 選定根拠	文字		100																
調査地区 地区の特徴	文字		100																

左右岸マスタ	
コード番号	内容
1	左岸
2	右岸
3	中州
4	その他

印について

項目の右に「印」が付いているものについては、本来表示される内容ではなく、当該内容に該当するコードを入力します。

なお、入力コードは備考欄に示すマスターデータ(7章 種目録マスタ以降に記述)に示します。

白 紙

7. 種目録マスタ

以下に種目録マスタのデータ項目（案）を示す。

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
IDコード	数値	6		
並び番号	数値	6		
学名	文字	80		
門コード	数値	4		
門和名	文字		40	
門	文字	30		
亜門コード		4		
亜門和名			40	
亜門		30		
綱コード	数値	4		
綱和名	文字		40	
綱	文字	40		
亜綱コード		4		
亜綱和名			40	
亜綱		40		
目コード	数値	4		
目和名	文字		50	
目	文字	40		
科コード	数値	4		
科和名	文字		40	
科	文字	40		
亜科コード		4		
亜科和名			40	
亜科		40		
属コード	数値	4		
属和名	文字		40	
属	文字	40		
種和名	文字		80	
種小名	文字	80		
亜種和名	文字		40	
亜種小名	文字	80		
変種和名	文字		40	
変種名	文字	80		
品種和名	文字		40	
品種名	文字	80		

8. 共通マスタ、コード一覧

次に共通マスタデータ項目及びコード一覧(案)を示す。

表 8-1 共通マスタ一覧

No	共通マスタ名
1)	地建マスタ
2)	事務所マスタ
3)	水系マスタ
4)	河川マスタ
5)	河川区分マスタ
6)	有無マスタ
7)	河川形態マスタ
8)	季節マスタ
9)	天候マスタ
10)	瀬淵分類マスタ
11)	瀬マスタ
12)	淵マスタ
13)	他河床型マスタ
14)	河床材料マスタ
15)	礫の状態マスタ
16)	左右岸コードマスタ
17)	セグメント区分マスタ
18)	確認区間マスタ
19)	漁具漁法マスタ
20)	魚介類生活型マスタ
21)	底生調査区分マスタ
22)	底生環境区分マスタ
23)	干潟の河床材料マスタ
24)	植生基本分類マスタ
25)	植生群落マスタ
26)	群落地形マスタ
27)	群落環境マスタ
28)	群落土湿マスタ
29)	群落土性マスタ
30)	鳥類保護区分マスタ
31)	集団分布形態マスタ
32)	環境類型マスタ
33)	鳥類位置マスタ
34)	繁殖行動マスタ
35)	高低コードマスタ
36)	鳥類利用形態区分マスタ
37)	植生粗密マスタ
38)	土壌湿り具合マスタ
39)	観察内容マスタ
40)	観察状態マスタ
41)	性別コードマスタ
42)	採集方法マスタ
43)	風の状況マスタ
44)	特定種指定区分マスタ

1) 地建マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
地建コード	数値	6		0~8:地建、9:都道府県
地建名	文字		30	
備考	文字		30	

2) 事務所マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
地建コード	数値	6		地建コードが「9」の場合、
事務所コード	数値	6		事務所コードには「都道府県コード」
事務所名	文字		50	事務所名には「都道府県名」を入力
備考	文字		30	

3) 水系マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
水系コード	数値	3		
水系名	文字		30	
備考	文字		30	

4) 河川マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
河川コード	数値	4		
水系コード	数値	3		
基幹DB 河川コード	文字		16	河川基幹DBの子
河川名	文字		30	
河川区分コード	数値	2		
備考	文字		30	
流域面積	数値	6		
流路延長	数値	4		

5) 河川区分マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
河川区分コード	数値	2		
河川区分名	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 河川区分コード

コード番号	河川区分名	備考
01	本川	
02	支川	

6) 有無マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
有無コード	数値	2		
内容	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 有無コード

コード番号	内容	備考
00	有り	
01	無し	
99	不明	

7) 河川形態マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
河川形態コード	数値	2		
河川形態	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 河川形態コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	Bc型	
02	Bb-Bc型	
03	Bb型	
04	Aa-Bb型	
05	Aa型	
06	Aa()型	
07	Aa()型	
99	その他	

8) 季節マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
季節コード	数値	2		
季節	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 季節コード

コード番号	内容	備考
01	初春	
02	春	
03	夏	
04	秋	
05	冬	
11	春渡	鳥類のみ
12	繁前	
13	繁後	
14	秋渡	
15	越冬	

9) 天候マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
天候コード	数値	2		
天候	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 天候コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	晴れ	
02	曇り	
03	雨	
04	雪	

10) 瀬淵分類マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
瀬淵コード	数値	2		
瀬淵分類名	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 瀬淵分類コード

コード番号	内容	備考
00	不明	
01	瀬	
02	淵	
03	その他	

11) 瀬マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
瀬コード	数値	2		
瀬の種類	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 瀬コード

コード番号	内容	備考
00	不明	
11	平瀬	
12	早瀬	

12) 淵マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
淵コード	数値	2		
淵の種類	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 淵コード

コード番号	内容	備考
00	淵不明	
01	S型	
02	R型	
03	M型	
04	D型	
05	O型	

13) 他河床型マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
他河床型コード	数値	2		
河床型	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 他河床型コード

コード番号	内容	備考
00	不明	
01	ワンド等の静水域	
02	池	
03	湧水	
04	干潟	
99	その他	

14) 河床材料マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
河床材料コード	数値	2		
河床材料	文字		10	
河床材料記号	文字	4		
利用_魚	数値	1		魚介類調査での利用有無
利用_底	数値	1		底生動物調査での利用有無
利用_植	数値	1		植物調査での利用有無
利用_鳥	数値	1		鳥類調査での利用有無
利用_両	数値	1		両爬哺調査での利用有無
利用_昆	数値	1		陸上昆虫類調査での利用有無
備考	文字		30	

◆ 河床材料コード

コード番号	河床材料	記号	魚	底	植	鳥	両	昆
00	なし							
01	泥	M						
02	砂	S						
03	礫	G						
04	細礫	SG						
05	中礫	MG						
06	粗礫	LG						
07	小石	SB						
08	中石	MB						
09	大石	LB						
10	岩盤	R						

15) 礫の状態マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
礫の状態コード	数値	2		
礫の状態	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 礫の状態コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	浮き石	
02	沈み石	

16) 左右岸コードマスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
左右岸コード	数値	2		
左右岸	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 左右岸コード

コード番号	内容	備考
00	不明	
01	左岸	
02	右岸	
03	中州	
99	その他	

17) セグメント区分マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
セグメント区分コード	数値	2		
セグメント区分	文字		20	
備考	文字		30	

◆ セグメント区分

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	セグメントM	
02	セグメント1	
03	セグメント2 - 1	
04	セグメント2 - 2	
05	セグメント3	

18) 確認区間マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
確認区間コード	数値	2		
確認区間	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 確認区間コード

コード番号	内容	備考
01	区間内	
02	区間外	
03	特定不能	

19) 漁具漁法マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
漁具漁法コード	数値	2		
漁具漁法	文字		25	
備考	文字		30	

◆ 漁具漁法コード

コード番号	内容	備考
01	投網	
02	タモ網	
03	サデ網	
04	はえなわ、どう	
05	地曳網	
06	玉網	
07	セルびん	
08	潜水による捕獲	
99	その他	

20) 魚介類生活型マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
魚介類生活型コード	数値	2		
魚介類生活型	文字		15	
備考	文字		30	

◆ 魚介類生活型コード

コード番号	内容	備考
00	指定なし	
01	純淡水魚	
02	回遊魚	
03	汽水・海水魚	
04	生活型不明	

21) 底生調査区分マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
底生調査区分コード	数値	2		
底生調査区分	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 底生調査区分コード

コード番号	内容	備考
01	定性調査	
02	定量調査	

22) 底生環境区分マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
底生環境区分コード	数値	3		
底生環境区分	文字		30	
備考	文字		30	

◆ 底生環境区分コード

コード番号	内容	備考
101	a. 流速が早くて川底が石礫	淡水域
102	b. 流速が早くて、落葉がたまっている	↑
103	c. 流速が遅くて川底が石礫	
104	d. 流速が遅くて川底が砂	
105	e. ほとんど流速がなく水中に落葉がたまっている	
106	f. 水深が深い	
107	g. 大きな石の下	
108	h. 河岸が浅く川底が砂礫	
109	i. 沈水植物の群落内	
110	j. 植物などが水に浸かっている	
111	k. ヨシ帯等の抽水植物	
112	l. 蘇苔のマット	
113	m. 樹木、木の根等が水に浸かっている	
114	n. 岩盤、コンクリートブロック	
115	o. 河岸部	
116	p. 飛沫帯	
117	q. 湧水	
118	r. ワンド、細流	
119	s. 池、水たまり	↓
120	その他	
201	a. 干潟の砂、泥	汽水域
202	b. 潮だまり	↑
203	c. 転石	
204	d. ヨシ原	
205	e. 海藻(草)類	
206	f. 大きなゴミ周辺	
207	g. 細かいゴミ周辺	
208	h. 杭、消波ブロック	
209	i. 淡水の流入する箇所	
210	j. 水深の深い箇所	
211	その他	↓

23) 干潟の河床材料マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
干潟の河床材料コード	数値	2		
干潟の河床材料	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 干潟の河床材料コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	泥	
02	砂	
03	砂礫	

04	礫	
----	---	--

24) 植生基本分類マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
植生基本分類コード	数値	4		
植生基本分類名	文字		25	
植生基本細分類名	文字		25	
独自分類番号	数値	4	25	事務所で独自の分類を行うときに使用
独自分類名	文字		25	
独自細分類名	文字		25	
備考	文字		30	

◆ 植生基本分類マスタ

コード番号	基本分類名	細分類名	備考
01	沈水植物群落		
02	浮葉植物群落		
03	塩沼植物群落		
04	砂丘植物群落		
05	一年生草本群落		
06	多年生広葉草本群落		
07	単子葉草本群落	ヨシ群落	
08	単子葉草本群落	ツルヨシ群落	
09	単子葉草本群落	オギ群落	
10	単子葉草本群落	その他の単子葉草本群落	
11	ヤナギ低木林		
12	ヤナギ高木林		
13	その他の低木林		
14	落葉広葉樹林		
15	落葉針葉樹林		
16	常緑広葉樹林		
17	常緑針葉樹林		
18	植林地(竹林)		
19	植林地(スギ・ヒノキ)		
20	植林地(その他)		
21	果樹園		
22	畑		
23	水田		
24	人工草地		
25	グラウンドなど		
26	人工構造物		
27	自然裸地		
28	開放水面		
29	その他		
30	不明		

25) 植生群落マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
植生群落コード	数値	6		
植生基本分類コード	数値	4		植生基本分類マスタとリンク
植生群落名	文字		100	
備考	文字		100	

26) 群落地形マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
群落地形コード	数値	2		
群落地形	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 群落地形コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	平地	
02	斜面	
03	凸	
04	凹	

27) 群落環境マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
群落環境コード	数値	2		
群落環境	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 群落環境コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	水域	
02	水際	
03	陸域	

28) 群落土湿マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
群落土湿コード	数値	2		
群落土湿	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 群落土湿コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	乾	
02	適	
03	湿	
04	過湿	

29) 群落土性マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
群落土性コード	数値	2		
群落土性	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 群落土性コード

コード番号	内容	備考
00	礫	
01	砂礫	
02	砂土	
03	砂壤土	
04	壤土	
05	シルト質壤土	
06	埴壤土	
07	重壤土	

30) 鳥類保護区分マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
鳥類保護区分コード	数値	2		
鳥類保護区分	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 鳥類保護区分コード

コード番号	内容	備考
01	保護	鳥獣保護区
02	特別	鳥獣保護区の中の特別保護区
03	休猟	休猟区
04	銃猟禁止	銃猟禁止区域
05	銃猟制限	銃猟制限区域
06	捕獲禁止	一般的鳥獣捕獲禁止区域

31) 集団分布形態マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
集団分布形態コード	数値	2		
集団分布形態	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 集団分布形態コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	集団繁殖地	
02	集団ねぐら	
03	集団越冬地	

32) 環境類型マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
環境類型コード	数値	2		
環境類型	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 環境類型コード

コード番号	内容	備考
00		なし
01	沈	沈水・浮葉
02	草	草地
03	広	広葉樹林
04	針	針葉樹林
05	竹	竹林
06	低	低木林
07	砂	砂礫地
08	干	干潟
09	果	果樹園
10	畑	畑
11	田	水田
12	グ	グラウンド等
13	物	人工構造物
14	水	開放水面
15	池	池
16	他	その他
17	市	市街地

33) 鳥類位置マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
鳥類位置コード	数値	2		
鳥類位置	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 鳥類位置コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	地上	
02	草地	
03	樹上	
04	空中	
05	水面	
06	水中	
07	その他	
08	不明	

34) 繁殖行動マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
繁殖行動コード	数値	2		
繁殖行動	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 繁殖行動コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	B1	巣の確認
02	B2	餌運び
03	B3	巣立ち雛
04	B4	巣材運び
05	B5	擬傷(警戒)
06	B6	囀り及びディスプレイ
07	x	繁殖行動が確認されない

35) 高低コードマスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
高低コード	数値	2		
高低	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 高低コード

コード番号	内容	備考
01	高	
02	低	

36) 鳥類利用形態区分マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
鳥類利用形態区分コード	数値	2		
鳥類利用形態区分	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 鳥類利用形態区分コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	B1	巣の確認
02	B2	餌運び
03	B3	巣立ち雛
04	B4	巣材運び
05	B5	擬傷(警戒)
06	B6	囀り及びディスプレイ
07	R	休息
08	S	ねぐら
09	E	採餌
10	Z	その他

37) 植生粗密マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
植生粗密コード	数値	2		
植生粗密	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 植生粗密コード

コード番号	内容	備考
00	0	植生がないか、ほとんど生えていない
01	+	植生がまばらに生えている
02	++	植生が密生している

38) 土壌湿り具合マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
土壌湿り具合コード	数値	2		
土壌湿り具合	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 土壌湿り具合コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	乾燥	
02	湿潤	
03	水侵	

39) 観察内容マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
土壌湿り具合コード	数値	2		
土壌湿り具合	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 観察内容コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	捕獲	
02	目撃	両爬のみ
03	鳴き声	
04	足跡	
05	爪痕	
06	姿	嘯のみ
07	死体	嘯のみ
08	けもの道	嘯のみ
09	巣	嘯のみ
10	食痕	嘯のみ
11	糞	嘯のみ
12	抜け毛	嘯のみ
13	掘り返し	嘯のみ
14	その他	

40) 観察状態マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
観察状態コード	数値	2		
観察状態	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 観察状態コード

コード番号	内容	備考
00	なし	
01	沈水・浮葉	
02	草地	
03	低木林	
04	高木林	
05	裸地	
06	竹林	
07	植林地	
08	水田	
09	畑	
10	グラウンド・芝地等	
11	水面	
12	市街地	
13	その他	

41) 性別コードマスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
性別コード	数値	2		
性別	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 性別コード

コード番号	内容	備考
00	不明	
01		
02		

42) 採集方法マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
性別コード	数値	2		
性別	文字		30	
備考	文字		30	

◆ 採集方法コード

コード番号	内容	備考
01	任意採集法	
02	スウィーピング法	
03	ライトトラップ法	
04	ベイトトラップ法	
05	ピーティング法	

43) 風の状況マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
風の状況コード	数値	2		
風の状況	文字		10	
備考	文字		30	

◆ 風の状況コード

コード番号	内容	備考
00	無	
01	弱	
02	中	
03	強	

44) 特定種指定区分マスタ

データ項目	属性	データ長		備考
		半角	全角	
特定種指定区分コード	数値	2		
特定種指定区分	文字		10	
利用_魚	数値	1		魚介類調査での利用有無
利用_底	数値	1		底生動物調査での利用有無
利用_植	数値	1		植物調査での利用有無
利用_鳥	数値	1		鳥類調査での利用有無
利用_両	数値	1		両爬哺調査での利用有無
利用_昆	数値	1		陸上昆虫類調査での利用有無
備考	文字		100	

◆ 特定種指定区分コード

コード 番号	内容	備考	魚	底	植	鳥	両	昆
01	特天	「文化財保護法」の特別天然記念物						
02	国天	国指定天然記念物						
03	県天	県指定天然記念物						
04	市天	市指定天然記念物						
05	保存	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種						
06	公園	「自然公園法」における指定植物						
07	他	地方において特筆すべき文献等 (地方版レッドデータブック)						
99	その他	その他の指定種						
緑の国勢調査								
11	自然	「緑の国勢調査(第1回自然環境保全調査)」における「優れた自然の調査」対象種						
12	重要	「緑の国勢調査(第2回自然環境保全基礎調査)」における「日本の重要な淡水魚類」対象種(ただし、環境庁指定の種のみを対象)・「日本の重要な昆虫類」指定昆虫・「日本の重要な」両生類・爬虫類対象種、「日本の重要な植物群落」における特定植物群落 「緑の国勢調査(第3回自然環境保全基礎調査)」における「日本の重要な植物群落」における特定植物群落						
13	希少	「緑の国勢調査(第2回自然環境保全基礎調査)」における希少種(鳥類)						
レッドデータブック								
21	絶滅	レッドデータブック - 絶滅種						
22	危惧	レッドデータブック - 絶滅危惧種						
23	危急	レッドデータブック - 危急種						
24	希少	レッドデータブック - 希少種						
25	不明	レッドデータブック - 現状不明種						
26	地域	レッドデータブック - 地域個体群						
レッドリスト								
31	絶滅RL	レッドリスト - 絶滅						
32	野絶滅	レッドリスト - 野生絶滅						
33	危惧	レッドリスト - 絶滅危惧 類						
34	危惧 A	レッドリスト - 絶滅危惧 A類						
35	危惧 B	レッドリスト - 絶滅危惧 B類						
36	危惧	レッドリスト - 絶滅危惧 類						
37	準絶滅	レッドリスト - 準絶滅危惧						
38	不足	レッドリスト - 情報不足						
39	地域RL	レッドリスト - 地域個体群						